

図画工作科学習指導案

日 時 令和元年 10月23日 (水)
生 徒
授業場
授業者

1. 題材名「秋の附小の森どうぶつえん」

2. 題材の目標

動物園見学等で観察した動物から感じたことを基に、表したいものの形や色のイメージをもち、表し方を工夫しながら表すことを楽しむことができるようにする。また、学び合いの活動の中でともに学び合うよさに気付くことができるようにする。

3. 題材観・児童観・指導観

図画工作科の教科の目標は、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することである。「造形的な見方・考え方」とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」であると考えられ、「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」とは、「児童がつくりだす形や色、作品などや、家庭、地域、社会出会う形や色、作品、造形、美術などと豊かに関わる資質・能力」を示している。中でも特に、図画工作科の学びを通して「造形や美術の働きが自分の身の周りの生活や、身近な環境を美しくしたり楽しくすること」、そして教科横断的な視点からも「他教科等の学習において生かされること」や「他教科と深く関連していること」等を実感的に理解させることが重要であると考えられる。

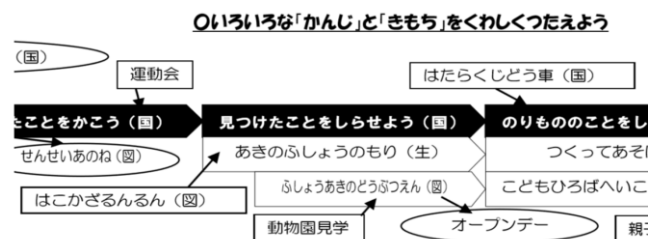
本題材は、観察した動物から「見たこと」や「感じたこと」を基に、少人数のグループで学び合いながら絵に表していくものである。共通の対象を基に、他者との関わりの中で、感じ方を伝え合ったり、対話や学び合いを通して活発に発想したり構想したりすることで、より豊かに自己の見方や感じ方を広げることができるように考える。

低学年の児童の表したいことは、初めからはっきりしているものではない。様々な表し方を試しながら、そして周りの友人と関わり合いながら、形や色などを楽しむ中で自分の思いをはっきりさせしていくものである。本校1学年児童においても、つくりながら考えたり、結果にこだわらずに様々な方法を試したり、発想が次々と展開したりするなどの様子が見られる。このような特徴を考慮して、児童一人一人の発想や構想を可能な限り受け止めることや、造形的な試みを見守り、励ますことももちろん大切である。しかし、試しているうちに描く動作自体の楽しさに引っ張られ、主題を見失ったり、自分の表したい思いやイメージからかけ離れてしまったりすることも少なくない。そのため、低学年においても自分の表したい思いを形づくりながら、表したい思いを基に造形的な視点で考え、工夫して表していくことが必要であると考えられる。対話(自己、他者、作品、素材等との対話を含む)を通して自分の見方・考え方を広げながら、表したいことを見つけたり、表したい思いを形づくり、表したい思いやイメージに合わせて表し方を選択・決定したり、調整したりしながら工夫して表していくことができるよう手立てを講じていきたい。

また、他者との対話や学び合いを通して、感じ方を他者と伝え合うなかで、「表したい思いやイメージを見付け」形づくっていくこと、課題を共有し共に「表したい思いやイメージに作品を近づけること」、そして、描く楽しさや創り出す喜びを他者と共感することで、「学び合うことのよさ」にも気付けるように指導していきたい。

4. 「学級・学年経営年間プログラム」とのかかわり

第1学年の学級・学年経営年間プログラムに『いろいろな「かんじ」と「きもち」をくわしくつたえよう』という学習パッケージがある。これは、国語科「見つけたことをしらせよう」を中核として、生活科「あきのふしょうのもり」、「動物園見学」、本題材である図画工作科の「あきのふしょうのもりどうぶつえん」を関連させて資質・能力を育むパッケージである。本題材は、特に「動物園見学」での体験や生活科での「気付き」や「工夫」の経験、国語科の五



感を使った様々な表現や言語活動の学習等と深い関連があると考え。「感じたこと」やその時の「気持ち」を大切にしながら、「伝えたいこと」(＝図工では「表したいこと」)を表すため、感性を豊かに働かせ、他者との交流の中で、自己の考え方を広げ表現していくことが、他教科の表現や学習にもつながると考える。

また、このパッケージは、本校の教育活動を入学希望者とその保護者へ公開する「オープンデー」を学習発表のひとつの場として設定している。来年度入学してくるかもしれない園児たちに、自分たちがこの半年で学んだことや自分たちが感じた附属小学校のよさや面白さを伝えることができる場でもある。よって、児童たちには「来校した園児やその保護者が楽しく学校を見学できるようにプレイルームや廊下を飾ろう」「作品と共に附属小学校のよさやおもしろさを伝えよう(作品と共に園児にむけたメッセージも展示する予定)」という目的意識がある。

本題材を通して、鑑賞活動や他者との交流、対話から、造形的な視野や見方、感じ方を広げようとしたり、相手意識や目的意識をもってより良い方法で伝えたり表現したりしていこうとする態度を育むことが、学級・学年経営年間プログラムの目指す児童の姿に通ずるものと考え。

5. 題材を通して育むリーダーシップ・フォロワーシップに関わる資質・能力

本題材は、自己の主題や表現を追究するための課題を見だし、解決のために思考・判断・表現等をしていく場面において「LF-ship」に関わる資質能力の育成を目指す。表現と鑑賞、発想や構想と創造的な技能が相互に関連する学習の構造をねらい、またそのような構造の中で、児童たちが「学び合い」を通して、互いに影響し合い、課題の解決に必要な情報や手段を判断、選択できるような手立てを講じていきたい。特に、本題材においては「問題解決力」に焦点をあて、児童が表したい思いと表し方と結びつけて考えながら、様々な表し方や手段から自分の表したい思いやイメージに合ったものを選択したり、それらを調整したりしながら表したい思いやイメージに作品を近づけていこうとする姿を目指したい。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表そうとしている。	ア 感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けようとしている。 イ 表したい思いやイメージをもとに、形や色を考え、どのように表すかについて考えようとしている。	ア 他者の考えや、表したことから造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ろうとしている。 イ よりよい作品にするため、形や色を視点に、見直しを行いながら粘り強く取り組もうとしている。

7. 題材計画

時数	○主な学習活動	評価の観点			学び合いの過程 手立て
		知	思	主	
1 5 3	○動物園で観察した動物の特徴や魅力を話し合う。 ○描いてみたい動物を出し合い、グループに分かれる。 ○選んだ動物のどんな様子を絵にしたいか、どんな作品にしたいかを話し合う。 ○グループで実物大の大きさの動物をどうやって描くか考える。(下描き) ○描画材の紹介(クレヨン・色鉛筆・絵の具・チョーク) ※試行も可	ア	ア		手立てⅡ ・導入時における発問や資料提示等と展開時の学び合いの場面を結びつけることにより、より豊かで活発な対話や交流を促し、主体的に表したい思いにあった表し方を選択・決定させていく。
4 (本時) ・5	○表したい思いやイメージに合わせて形や色を考え、動物の体に色を塗る。 ○材料や用具の使い方を工夫して表す。		イ	イ	
6	○実際に附小の森に作品を展示し、相互に作品鑑賞しながらそれぞれの作品の表し方のよさやおもしろさを感じ取る。 ○展示方法などを考えながら作品のキャプションをつくる。			ア	

8. 本時案

(1) 本時の目標

学び合いの中で、表したい思いやイメージを基に、表し方を工夫しながら表すことを楽しむことができる。

(2) 本時の展開 (4 / 6)

<p>学習活動 児童・生徒の姿 ○教師の働きかけ・発問 (△補助発問, □指示・説明) 手立て</p>	<p>【評価の観点】 ◇評価の内容 ・指導上の留意点</p>
<p>1 自分たちの表したい思いやイメージを大切にしながら、どうぶつの体に色を塗ることについて考える。Ⅱ-(1) ○今日はどうぶつに色をぬりますが、みんなどんな感じにしたいのかな。 (前時の板書を使って「あらわしたい感じ」を思い出す)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「さわったらふわふわした感じ」 ・「どっしり強そうな感じにしたい」 ・「きれいな羽の感じにしたい」 ・「あれ? どうだったかな」 ・「さわったらざらざらした感じにしたい」 ・「こわくて迫力がある感じ」 </div> <p>○(児童の作品を例に取りあげる)色々な塗り方があってどれもすてきだけど、感じ方が違うね。(感じ方が違う作例を取り上げ)あらわしたい感じに合わせて塗り方を選んだ方が良さそうだね。場所によっても塗り方を変えても良いかもね。</p> <p>2 班で話し合い、共有している表したい思いやイメージをもとに、表し方を選択するⅡ-(2) ○どんな塗り方が表したい感じにあっているかな。グループで話し合ってみよう。 足りなかったら試し紙にどんどん試してみよう。 塗り方が決まった班は先生に教えてね。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「こんな感じにしたいからこの塗り方はどう」 ・「この塗り方も良いね」 ・「この塗り方にしよう」 ・「イメージと少し違うかも」 ・「この塗り方とこの塗り方合わせたらどうかな」 ・「もう一回試してみよう」 ・「なんか違うな」 ・「この感じにあっているね」・「早く塗りたいな」 ・「どこからぬろうか」 ・「他の班はどんな塗り方にしたんだろう」 ・「もっと～の感じ出したいな」 ・「やわらかい感じはチョークがいいかも」 </div> <p>○(話し合いが終わったグループに確認をおこなう)「どんな風にしたいの?」「なぜその道具を使うの?」「それ使ったらどんな感じになるの?」 (板書して他のグループの情報が共有できるようにする)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「この道具をつかったら柔かい毛がかかるから」 ・「強そうな皮膚にしたいんだ」 ・「この道具を組み合わせると羽っぽくなるんだ」 ・「クレヨンの上に絵の具を塗るよ」 ・「チョークで描いたらふわふわするから」 </div> <p>3 どうぶつの体に色を塗る ○みんなで話し合ったことを大切に塗ろう ○困ったらすぐ班の人と相談しようね ○あのグループの塗り方をみると参考になりそうだよ</p> <p>4 次時の活動のイメージをもつ ○次回はよいよ完成です。グループでまず何したら良さそうかな? ○何がしたいかな?</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「次の時間はここから作りはじめたい」 ・「ここを先につくろう」 ・「次はクレヨンを塗るよ」 ・「うまく塗れなかったよ」 ・「もう一回話し合ってからのはじめたいな」 ・「次の図工が楽しみだな」 </div>	<p>・Ⅱ-(1)はⅡ-(2)につながる発問。これまでの学習で考えた「表したい思いやイメージ」や「表し方」を想起させる。</p> <p>・巡回しながらどのような選択・判断をしたか見とる</p> <p>・Ⅱ-(2)はⅢ-(1)をきっかけとして対話や学び合いが促されるような発問や環境構成を行う</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◇【思】表したい思いやイメージをもとに、形や色を考え、どのように表すかについて考えようとしている。</p> <p>◇【主】よりよい作品にするため、形や色を視点に、見直しを行いながら粘り強く取り組もうとしている。</p> </div> <p>・随時、個別の特性に応じた指導を行う</p>